

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾通信

T:峠を over:越えて

T:たがいに over:越える

T:ともに over:越える

Talk over:じっくり話し合う

私たちのコンセプト、「みんなで語り合う人権学習」

「私の両親は離婚して、今は父さんの方に住んでるんだけど、弟2人は母さんの方に住んでて…。

5年生ぐらいの時からそんな話が出て、6年生ぐらいの時に学校に行きたくなくなって、…それですと保健室でいた時があって、…ミニバスにもほとんど行けなくなって、キャプテンなのに申し訳なかったなって…。

月1回ぐらい母さんとも会ってるんだけど、最初の方はムカついてて、会ってもあまり目合わさなかったし、メールが来ても返さなかったし、電話も出ないときもあって、母さんにはすごくつらい思いさせたなって、今になって思う。

母さんに、「母さんところにおいで」って何度も言われて。でも私はここにいるって決めたし、そう言われるのがすごくつらくて…。

今まで友達にも話さなかったし、親にも自分の気持ちなんて言わなかった。何にも口に出さなくて…ただいつも泣くばかりで。でもこうやってみんなが聞いてくれるから、それはとってもうれしくて…ありがとう。」

決して人に言うことはないと思ってた。
そんな自分が、好きになる。人を好きになる。
そして、伝えること、つながることの意味を知る。

30年あまりの歳月を超えて寄せられた教え子からのメッセージ。

「おはようございます。僕の率直な意見を送ります。当時僕は、県外から引っ越してきました。部落問題なんてまったく知らなかったんです。まわりのみんなは知ってました。小学校から取り組まれてたんでしょね。

僕ね、知らなかった方が良かったって、当時思ってた。わざわざ知らせることないんじゃないかな。知ったが故に違和感持ったり…知らなかったら今まで通り普通に過ごせるのに…って。

部活の帰りOちゃんと歩いてたら、アイツ、カミングアウトしてきたんです。「何で言うてるん？ わざわざ…別に差別なんかしないし…それ言うて俺に何を？」って。でも別れて一人帰ってる道中で、なぜか涙がこぼれてきました。

懐かしい歌聞けば当時が走馬灯のように思い出されます。でも3日前の出来事は覚えてません。コレ、記憶じゃなくて『感動』で心に響いてるからなんです。僕、全体学習の席まで覚えてます。体育館の校庭側、前列3番目でした。向かいの窓から職員室越しに青天で…。

感じたことは温度差・個人差あるでしょうが、僕は残ってます。」

面倒な年ごろと言われる中学生。

多感な年ごろと言われる中学生。

知っていますか？

その年ごろに同世代から聞かれた心の声には、強く心揺さぶられるということ。

知っていますか？

それは忘れられない強烈な記憶として宿り続け、後の人生に大きな影響を与えるということ。

いつまでも、みんなの心に残り続ける人権学習を、すべての子どもたちに。

みんなで語り合う、本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ代表